

平成31年度 学力向上指導改善プラン

三田市立藍中学校長 谷口 雅也

学校教育目標		「心豊かに たくましく 共に歩み 共に生きる生徒」の育成			
推進主体		校長・教頭・研究推進・教育課程・各教科代表による研究推進委員会を中心として推進している。			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	算数数学		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要とする内容については弱さが見られる。また、学年によっては点数の分布が二極化の傾向が見られる。			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	落ち着いた学習態度で真面目に授業に参加している。積極的な態度で発表もよくしているが、自分の考えを簡潔にまとめて説明したり、感想や説明文を書くことに苦手意識を持つ生徒が見られる。			
	慣学・力生向上習に慣等るの学習状況	学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけており、概ね良好である。 家庭学習の時間は概ね確保できており、宿題もきちんとやっている。 予習・復習を計画的に進めることに課題がある。 将来の夢を持ち、人の役に立ちたいとの思いを持つ生徒が多い。 自分の良いところを認められない生徒が少し多い。			
	学校評価などのアンケート調査に関する児童・生徒の状況	全体的に落ち着いた真面目な学習態度で取り組んでいる。家庭学習の習慣化についても向上傾向にあるが、今後も引き続き家庭への啓発や、小中で連携した家庭学習の定着への取り組みが必要である。			
研修内研究状況	校内研究の状況	特別支援教育を根幹においた「わかる授業づくり」を目指して、めあて・振り返りを各教科で定着させ、学習指導の工夫、授業改善につながる学習指導のための評価について取り組んだ。			
	校内研修の状況	「主体的・対話的で深い学び」の視点から、講師を招いての授業研究、研修を行った。また、授業公開週間を2回設けて、教師が互いに学びあう体制づくりをした。			
家庭連・携仲間	家庭・地域等の状況	教育への関心が高く、学校教育活動に協力的である。地域活動も活発で学校への支援体制も強い。近年、生徒の地域行事への参加を積極的に行い、地域との連携も活発である。			
	小・中における教科連携等の状況	人権教育を核にした藍中学校区3校の研修体制が従来から取り組まれており、成果を上げている。家庭学習の定着を含め、小中で連携、継続した学力向上への取り組みを進めている。			
		4月	10～11月	2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
		年間3回以上の研究授業・研究討議及び授業公開を実施する。	・講師を招き、授業改善に向けて、指導力向上のための研修を1回、授業公開週間を2回設定する。さらに研究討議から具体的な共通実践事項を明確にしている。 ・生徒に「学びのステップ」学びの心構えを明示し、学校全体で共通した学習への取り組み姿勢を確立する。 ・授業公開週間だけでなく、日頃の授業参観も活発に行い、互いに学び高めあう教師集団作り努める。	・「書く力」については、課題があり、まだまだ工夫と努力が必要である。そのため、次の3点を取組の具体とする。①現在、「言語事項」を中心に行っている「新学習」を継続し、伝統的な文化や言語意識の定着と拡充を目指す。②「新学習システム」を有効活用し、表現能力や書く力をていねいに指導していく。③単元ごとに行っている小テストを充実させ、日頃から意識的に漢字や語句を習得させる環境づくりを進める。 ・特別支援教育の視点を活かして、どの生徒にとっても「学校・家庭・地域」が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方」を進めてきた。11月には講師を招き、研究授業の後、「主体的で対話的な深い学び」のために学習指導の工夫、授業改善について研修を行う。1、2学期には、授業公開週間を設定して、各自の授業改善に取り組んでいく。	・「書く力」については、課題があり、まだまだ工夫と努力が必要である。そのため、次の3点を取組の具体とする。①現在、「言語事項」を中心に行っている「新学習」を継続し、伝統的な文化や言語意識の定着と拡充を目指す。②「新学習システム」を有効活用し、表現能力や書く力をていねいに指導していく。③単元ごとに行っている小テストを充実させ、日頃から意識的に漢字や語句を習得させる環境づくりを進める。 ・特別支援教育の視点を活かして、どの生徒にとっても「学校・家庭・地域」が連携し、自ら学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる学習指導の在り方」を進めてきた。11月には講師を招き、研究授業の後、「主体的で対話的な深い学び」のために学習指導の工夫、授業改善について研修を行う。1、2学期には、授業公開週間を設定して、各自の授業改善に取り組んでいく。
		人権教育を基盤にした小中連携の成果を踏まえ、学力向上の視点からの連携をより一層進める。	・藍中学校区3校全教職員の交流研修の実施と内容の充実を図る。 ・家庭学習の定着を進め、学力向上への具体策を検討する。 ・小学校教職員及び6年生保護者対象に、中学校での進路指導の実態を説明して、小学校から養うべき学習への姿勢を共通理解する。	・人権教育を基盤にした「三校研」(藍中・藍小・つじが丘小、三校の教員の合同研修会)を7月に実施した。今年度は、講師を招き、藍中学校区の人権教育の取組の歴史や今日的課題について学習した。その後、小学校の先生方に、校長・進路担当から中学校での進路指導の実態について説明した。小学校の先生方にも、中学校卒業後に生徒が希望する進路実現のためには、確かな学力の裏付けがあつてこそものであることを理解してもらい、小学校から養うべき学習への姿勢や家庭学習の定着の重要性を共通理解した。これをもとに中学校区での9年間のスパンでの連携を進めていくことを確認した。 ・学校と家庭での連携により、家庭学習の定着をめざして藍中版「ひとり学びの手引き」(改訂版)を作成し、各家庭に配布した。	・人権教育を基盤にした「三校研」(藍中・藍小・つじが丘小、三校の教員の合同研修会)を7月に実施した。今年度は、講師を招き、藍中学校区の人権教育の取組の歴史や今日的課題について学習した。その後、小学校の先生方に、校長・進路担当から中学校での進路指導の実態について説明した。小学校の先生方にも、中学校卒業後に生徒が希望する進路実現のためには、確かな学力の裏付けがあつてこそものであることを理解してもらい、小学校から養うべき学習への姿勢や家庭学習の定着の重要性を共通理解した。これをもとに中学校区での9年間のスパンでの連携を進めていくことを確認した。 ・学校と家庭での連携により、家庭学習の定着をめざして藍中版「ひとり学びの手引き」(改訂版)を作成し、各家庭に配布した。
		・兵庫型体験活動を通して達成感や自己有用感を高め、キャリアプランニング能力の育成につなげる。	・トライやるウィークでの経験を話し、自分の将来を考慮し、学ぶことと働くことの意義、役割の理解を図る。 キャリアノートを積極的に活用して進路学習との連携を進める。	・トライやるウィークと3年生での進路学習の中で、講師を招きマナーアップ講座を行う。社会に必要な礼儀や挨拶等を学び、社会と関わる力身につけさせ、自己認識や自尊感情を高める。	・困っている人を助け、人の役に立ちたいとの思いを持つ生徒が多いが、自分の良いところを認められない生徒の割合が少し多い。今後生徒の自尊感情をさらに高めながら、将来の展望や夢を持つ力の育成が必要である。 ・キャリア教育の学年での系統だった推進に取り組んできた。1年生では自分の関心のある職業調べ、2年生ではトライやるウィークにむけての事前のマナーアップ講座の実施と事後の発表会、3年生では進路指導の一環としてのマナーアップ講座の実施を行う。今後も3年間を見通した推進に取り組むたい。
		・学校全体の共通実践により、規律ある学習習慣の確立を図る。基礎学力の定着を目的として、「学習タイム」で2、3年生は5教科、1年生は3教科の朝学習を行う。時期を決め、読書の時間も設定して、落ち着いた学習への姿勢を養う。	・校内研究を進め、授業における学校としての統一スタイルを徹底する。「ひょうごがんばりタイム」の活用により、基礎・基本の定着を図る補充学習に取り組む。	・授業の「めあて」と「振り返り」を共通して取り組む。学習規律を保ちながら、落ち着いた雰囲気や学習活動を展開する。また、学習タイムの評価により、各自の習熟度を認識させ、「ひょうごがんばりタイム」との連携により補充学習を行い、家庭学習の習慣と基礎基本の定着を進める。	・家庭での学習時間は概ね確保できているが、予習・復習を計画的に進めることに課題がある。各家庭に配布した「藍中版ひとり学びの手引き」を活用して、保護者にも意識を高めてもらい、予習・復習をより計画的に実施させていきたい。 ・授業については、各教科の大切なことを理解しており、学習内容を理解している生徒が多いが、学習したことを最後の生活に活用しようとする意識が低い。 ・学習タイムや「ひょうごがんばりタイム」を活用し、家庭学習の習慣化につなげ、基礎的な内容の補充学習に取り組む。また、授業の中で予習・復習のポイントとなる事項を伝えて、生徒の意識を高めていきたい。
		・教育相談体制の充実を図り、一人ひとりの生活や学習の課題や悩みに対応する。スクールカウンセラーとの連携により、生徒に共感し寄り添う指導の深化を図る。また、「ひょうごがんばりタイム」の指導員との連携により、基礎・基本や学習習慣の定着に取り組む。家庭学習の定着に向けて、小中で連携し系統だった啓発・指導を進める。	・毎週木曜日を教育相談日として、さらに毎学期に教育相談週間を設ける。	・「ひょうごがんばりタイム」の実施により、学習や生活に関わる生徒の不安や悩みの解消に努める。さらに、生徒の思いや願いをくみ取るために、スクールカウンセラーとの連携を進める。生徒と人間的なふれあいを基盤にした生徒指導を実践することで学びの環境を整え、生徒の学習意欲を高める。	・1学期<6月>に教育相談週間を設定し教育相談体制の充実を図った。2学期<11月>にも教育相談週間を設定しており、一人ひとりが相談しやすい環境作りを進めている。SCとの連携を進め、個々の悩みや学習上の課題等を的確に把握して適時に柔軟に対応していきたい。また、毎日の生活の中で、生徒の良さをしっかりと伝え、自己肯定感や自己有用感を高める機会を増やしたい。 ・「ひょうごがんばりタイム」の指導員との連携により、基礎・基本の定着を図り、学習習慣の定着に取り組む。
		・学校と家庭・地域・事業所等との連携を強め、生徒の体験活動の場を増やす取り組みを図る。様々な体験活動を通して、生徒自身の自己有用感を高める。	・地域貢献活動、生徒会や部活動等でのボランティア活動をより積極的に進める。	・地域や家庭、事業所等との連携をさらに進め、地域のまつりや市民センターまつり、地域の防災訓練や奉仕活動等への中学生ボランティアの参加をより活発にする。	・人の役に立ちたいと思っている生徒が多く、地域社会の問題に関心があり、地域行事に参加している生徒が多い。 ・夏祭りなどで地域貢献活動(中学生スタッフ)や生徒会・部活動等でのボランティア活動を地域や家庭と協力しながら進められた。 ・中学生の活動が地域の方々から認められ、感謝され、ほめられる経験を通して、生徒の自尊感情が高まることにつながっている。このことが自分に自信を持ち、日々の生活を地道に確実に頑張れる力の源になっている。